

## 2026年3月期 第3四半期 Web決算説明会 主な質疑応答記録

日時：2026年1月30日(水) 12:00～12:45

出席者：取締役 常務執行役員 経営企画本部長 井上 智弘

### <多結晶シリコンの販売数量について>

Q: 多結晶シリコンは一部ユーザーで在庫調整があるということだが、2026年度は通常通りに戻ると考えてよいか。

A: 海外のユーザーで特殊事情による在庫調整があったものの、徐々に戻ってくるとみている。2025年度通期の販売数量は2024年度比+2～3%の見込み。期初時点では2024年度比+20%と見込んでいたが、ボリュームゾーンの回復が遅れている。  
2026年度もボリュームゾーンには不透明感があるが、先端は堅調で、在庫も徐々に捌けていく。当社の製品は先端向けで使っていただける品質レベルなので、販売数量は2025年度比で+5～10%程度を見込んでいる。

### <多結晶シリコンの販売動向について>

Q: 多結晶シリコンの販売数量につき、地域別の濃淡はあるか。また先端向けとレガシー向けでは違いがあるのか。

A: 先端分野に進出しているウエハーメーカーは少なく、地域面では限定的。中国のウエハーメーカーはレガシー向けが大半で、当社製品を使っているのは先端向けのウエハーメーカーが中心。当該メーカーで在庫調整が行われたものの、地域別に見たときのインパクトは少ない。  
レガシーが力強さに欠ける状況は引き続き継続している。先端とレガシーの比率は分からぬが、我々の多結晶シリコンは先端向けで使われており、その出荷状況をみて「先端が伸びている」と判断している。

### <通期業績予想の修正について>

Q: 電子先端材料の営業利益は上方修正となり、2025年度3Q→4Qで営業利益が20億円弱増益となるが、要因は何か。

A: 多結晶シリコンの数量増。多結晶シリコンは年間契約を行っているため、年間の契約数量に合わせ4Qに数量が積みあがる傾向にある。2025年度4Q単体の販売数量は、対2024年度比で増加の見込み。3Q時点の販売数量は対2024年度比でマイナスだが、通期では若干のプラスとみている。

以上